



～おしえて!! 認知症～ = 第8回 =

～認知症の症状と対応～

認知症の症状は人それぞれです。その人の症状や特徴を理解し、その人に応じた対応をしましょう。そばで見守り声をかける人がいれば日常生活は継続できます。自信を無くすような強い言葉はさげ、できていることに目を向けて評価し、安心して過ごせることが病気の進行を遅らせることにもつながります。

- 1 考えるスピードが遅くなる→急がせないことが大切です。
- 2 二つ以上のことが重なるとうまく処理できない→シンプルに表現し、焦らせず一つ一つ処理できるよう工夫しましょう。
- 3 いつもと違う出来事で混乱しやすくなる→補い見守ってくれる人がいれば安心できます。
- 4 目に見えない仕組みが理解できなくなる→銀行のATMや洗濯機、炊飯器、IHクッカーなどもうまく使えなくなります。認知症になってからの買い替えは混乱を招くこととなります。
- 5 計画を立てて段取りすることが出来なくなる→調理などが段取り良くできなくなります。同じ食材が冷蔵庫にたまりだしたら注意して見守りましょう。

認知症カフェ「いたこハートカフェ」  
次回開催予定

日時：7月13日(水)  
午後2時～3時30分

定員：10人(要予約)

場所：グループホームこころ内「カフェつぐみ」  
(潮来市日の出1-21-1)

申込み：グループホームこころ  
☎ 80-9055

5月の参加者は7名でした🍵(^\_^)

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる文化

大生の思井戸とおもいどと水環境

大生の思井戸は、「大生の七井戸(七ツ井戸)」の一つであり、現在潮来市指定文化財となっている。七井戸とは、思井戸・鳴井戸・滝井戸・寺井戸・姫井戸・江里井戸・神野井戸をいい、うち六つは潮来市大生地区にあるが、神野井戸については詳細の所在地は不明であるが、現在の鹿嶋市神野地区にあるとされている。七井戸の水は、古くから地域住民の生活用水や農業用水として活用されてきたが、現在は各家庭の自家水道や上水道の普及に伴い、ほとんどが使用されず、竹林の中に埋もれてしまっている。そんな中、思井戸のみは今でも水量が豊富で、流れる水は往古の姿を残している。

思井戸は、大生地区の大生前合津にあり、もともと大生神社の御手洗池として、その水は祭礼などに使われていた。そもそも雨水が地下に浸透し、地表で最初に見られるのが湧水であるが、思井戸はこの湧水が自然に溜まったものである。思井戸の面積は約75平方メートルあり、鹿島神宮の御手洗池と同じ構築になっている。地元の方に聞くと、以前は思井戸の面積は今よりかなり広く、また深く、現在池の端に立っている鳥居は、古くは池の中央部にあったという。また、池の奥の崖面には青龍宮が祀られており、鳥居と合わせ神聖を保ち続けている。さらに過去には思井戸の東側に思井戸から流れ出る水が溜まる大きな池があり、農業用水などに利用されていた。

令和2年8月、NPO法人日本地質汚染審査機構主催で「第3回水循環シンポジウム」



思井戸全景



潮来湧水宣言など

潮来市文化財保護審議会

委員 茂木 悦男

「潮来市の文化財」  
潮来市教育委員会 平成15年3月発行  
「第3回水循環シンポジウム」  
NPO法人日本地質汚染審査機構主催  
令和2年8月30日開催

(水循環の恩恵と関東平野) 大生の七井戸湧水見学会・大生の七井戸と水循環シンポジウム」が開催され、多くの参加者があった。見学会の中では水中カメラによって、今でも思井戸の水の中を壁面から勢いよく湧水が流出していることが観察された。シンポジウムの最終プログラムでは、地下水と水が健全に循環するための人と自然環境機能の維持、人と人とのつながりによる水循環回復のための取り組みなどについて「潮来湧水宣言」が採択された。

潮来市は古くから風光明媚な水郷の中心地として、また水運の要衝として有名だが、このシンポジウムを通して、地下を流れる水環境もまた豊かで、地域の人々はその恩恵を受けてきたことが再認識された。(参考文献)